

今日の説教のポイント <マルコによる福音書5章25-34節>

- ①絶望の時は、それまで見えなかった新しい生の戸口に立つ希望の時でもある。

「12年間も出血が止まらない女」は絶望の淵に立っていました。そんな時にイエス様の噂を耳にはさんだのです。「大病を癒す奇跡を起こしている方がいる」と。とうとう最後に、「この方を信じることに賭けてみよう」と思ったようです。そして、そのことが病の癒しだけでなく、生全体の救いに導かれるきっかけとなりました。人間的に見れば八方ふさがりの絶望の時は、実は、新しい生に開かれた戸口に立つ希望の時でもあるのです。

- ②前の生活に戻れることが神様の用意して下さっている恵みではない。神様が用意して下さっているもっと大きな恵みに気づかねば。

イエス様に触った女の病はたちどころに癒されました。しかしイエス様は彼女を探し続けられました。体の病が癒えたからといって、それで帰してしまっていていいとは思われなかったからです。大病が癒されることは凄い奇跡です。しかし、人は皆、一つの病が癒えても別の病気に罹り、別の難儀に遭うこともあり、最後は死を迎えるのです。そう考えると、凄い奇跡、でもないような気がしてきます。「前の生活に戻れる」は実は目指すべき真のゴールではないのです。真のゴール、神様が本当に用意して下さっているゴールを目指さねば。

- ③イエス様を与えて下さった神様を知る時から、神様の御手の中を生きる者の新しい安心、新しい元気が与えられる。

女はイエス様の意気込みに負け、名乗り出、イエス様の話を聞く時間を過ごしました。そのことによって、イエス様が神様が私たちのために送って下さった救い主だと悟ったのです。彼女をどこまでも探し求められた主イエス。誰も私に気づいてくれなくとも、このお方のように私を決してお見捨てにならない神様がおられる。そのことに女は気づいたのです。この時から彼女に新しい人生が始まったのです。どんなことがあっても、神様の御手の中に置かれていることを覚えながら生きていける人生が！ 34節の「安心」と「元気」は、この神様に基づく生から出て来る「新しい安心」「新しい元気」なのです！